

⑥二河川支川21 外 災害関連緊急砂防事業、 砂防激甚災害対策特別緊急事業ほか

受賞機関 広島県 西部建設事務所
広島県熊野町

キーワード 地域の早期復旧・復興、地域防災力の向上、災害伝承

全建賞審査委員会の評価ポイント

令和30年7月豪雨による土砂災害地での応急工事及び再度災害防止の取組。応急工事の進捗状況にあわせた段階的な避難指示の解除、早期の砂防堰堤工事着手に繋がった工法採用、複数避難路や防災拠点の整備、事業完了後の継続的な防災出前講座の実施など、ハード・ソフト両面から復旧・復興、地域防災力の強化に取り組んだ点が評価された。

1. はじめに

平成30年7月豪雨では、広島県内で1,242箇所の土砂災害が発生した。7月6日に安芸郡熊野町川角地区（大原ハイツ）において、大規模な土石流が発生し、死者12名、住宅の損壊38棟に及ぶなど甚大な被害が生じた。

2. 事業の概要

土砂災害で甚大な被害が生じたことから、広島県と熊野町、地域住民等で連携を図り、応急的に、復旧対応、警戒避難体制の解除などを行った。その後、ハード整備として、広島県は不安定なコアストーンの破碎・除去、砂防堰堤3基、渓流保全工230m、急傾斜対策（法枠工）1箇所、熊野町は新設の避難路の整備を実施し、すべての工事を令和4年3月に完了させた。

また、ソフト対策として、防災教育の実施、災害伝承を目的に被災誌の発行や災害の記憶を後世に残すための減災広場の整備など、地域の復興を進めた。



斜面に残った不安定なコアストーン

3. 事業の成果

ハード面においては、地権者協力のもと、施工承諾によって、概数数量発注方式で早期工事着手を実現し、残存型枠の使用やSBウォール工法の採用で工期短縮を図った。また、工事完成後、速やかに土砂災害警戒区域を部分的に解除することで、家屋の再築が進み、地域の早期復興に繋がった。



すべての工事が完了した川角地区

ソフト面においては、広島県と熊野町で密に連携を図り、段階的な警戒避難体制の解除や住民説明会の実施など、生活再建を見据え、きめ細かな情報発信を行うことができた。また、事業完了後より、住民や地元小学校の児童に対し防災教育を実施することで、自助・共助行動を促進させ、防災に対する意識の向上を図ることができた。



防災出前講座の様子

4. おわりに

平時には「コミュニティの場」、非常時には「復興拠点の場」として活用できるよう、整備された大原祈念公園には、災害の記憶や事実を後世に伝承し、災害による犠牲者を二度と出さないという誓いを表す災害碑が建立され、「未来へ繋ぐ、尊い命の大切さ」と刻まれている。令和5年8月14日には、災害から5年の復興イベントとして、町民夏祭りを開催する運びとなった。当日は、盆踊りや花火大会などの催しもあり、約5,000人の参加者で賑わい、未来に向けた一歩を踏み出す、大切なイベントとなった。

賛助会員 (株)荒谷建設コンサルタント、(株)熊野技建